

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成30年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
30-2	交通流理論とAI学習による非日常の発見とアラート発信	東北大学 教授 桑原 雅夫	A

<研究の概要> ※成果報告レポートより引用

本研究では、交通流理論とAI学習を用いて、移動体データと気象・地形データ等を融合解析し、リアルタイムに非日常の「発見」と「事前アラート発信」を行う手法を開発した。さらに、非日常の発見と事前アラートに関する個別開発技術はリアルタイム可視化システムに組み込み、インターネット経由で管理者にリアルタイムに情報を提供できる仕組みを構築した。

<事後評価結果>

- ・非日常事象の継続的なデータの蓄積と開発技術の検証を踏まえて、実用化に期待したい。
- ・検出・予測とリアルタイム可視化といった一連の流れが示されており評価できる。
- ・既存の様々なデータを融合して、簡便なシステムを構築しており、社会実装が大いに期待できる。
- ・道路行政との連携に基づく貴重な成果であり、今後の道路行政の質の向上に大いに寄与し得る。
- ・研究全体のまとまりの必要性という指摘に対し、リアルタイム可視化システムで統一されたことは高く評価できる。一方で、そのシステムが備えるべき要件を道路管理者に尋ねたタイミングが遅すぎて、研究成果の修正に間に合っていないことが惜しまれる。
- ・このことから、研究目的は達成され、十分な研究成果があったと評価する。

<参考意見>

1. 実用化に向けて研究開発の継続は確かに必要と思われるが、そういう場(例えばベンチャー・キャピタルなど)をどう作るかは、別の枠組みとして議論することが望ましい。
2. 土砂災害は降雨のみならず土質や植生に大きく左右され、予測が難しいことが知られている。これまで様々なモデルが開発されているが、それらとの比較・評価が必要と考えられる。

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第43回新道路技術会議において審議したものである。